根本順吉氏の手紙に答える

卜　藏　建　治

1．について：私は大学時代に気象学や大気物理学を専門に学んでおりません．したがって，気象学の専門家と顔を合わせて自分の研究に関しての話が出来ることはとても喜びであり緊張する場面でもあるので20年以上前のことでも鮮明に覚えております．先に記したようにサシスセソの音が風を現す音であると聞いて，さすが気象学の大先生と感激しました．そして，ヤマセのセが風を現すなら残りの「ヤマ」は何だということに議論が及びました．夏にもかかわらずとても薄暗く日射量は津軽地方の冬の日射量と同程度であり，冬ならともかく夏の真昼のこの暗さはやりきれないものを感じる．この暗さは昼と言うよりは夜であり，昔の人の言う夜を支配する山の神＝夜魔の神に通じるので夜魔風ではないかと，現地観測の体験をまじえて延々と語った．現時点になって先生に記憶がないと言われれば致し方のないこと，しょせんは【酒の席での議論】となり悲しく残念に思います．ちなみに図1での「イヌが西むきゃ…」もその時の議論に出た言葉と記憶しております．私の研究対象としているヤマセを図示してこの言葉を使うとヤマセという言葉の範囲が限定されて良いと考えてこの場合敢えて書いた次第です．

2～6．までは：私が論じるヤマセは先に図1に示した通りオホーツク海高気圧からの海洋性寒冷気流であり，他で使われるヤマセという言葉には興味は持つが専門外であり，おぼつかない私見をこの場に延々と書いてもしかたないので，ご容赦ください．

7，8．について：先生からお手紙をいただいて奮起して先の談話室を書いた次第です．宮沢賢治については私自身は賢治研究家ではなく賢治の全作品について精通している訳ではありませんが「グスコーブドリの伝記の背景」を書いて以来，多くの賢治研究会の人達と話す機会があり彼らの多くも賢治作品の中で「ヤマセ」という言葉は見かけないと話すので素人の私が全作品を精読するまでもなく先の談話室を書きました．しかし，関　豊太郎に関する情報は少なく，私自身が調べるより手がないと思い岩手大学で作物学教室の平野氏（共著者）に話したところ，亀井氏の著書やそれに関わる文献などのコピーを多数揃えてくれました．感激して調べるなかで，関　豊太郎がただ1か所だけ東風にヤマセと官報の中で片仮名を振っているのを見つけたので「関　豊太郎はヤマセという言葉を使っている」と明記しました．彼が冷害気象に関する論文（報告）を書いたのはこの時期だけであり貴重な記述資料と言えると思います．

9．について：私は関論文を「ヤマセと冷害」の関係を論じた最初の論文とし冷害研究の100年を振り返り，冷害対策に向けての新たな展望が得られればと考えてシンポジウムを提案したのであって，その場で「ヤマセ」という言葉自体を議論することは考えておりません．関論文以後，論文や官公庁の公文で使われたヤマセという言葉は東北地方の冷害に関する場面が多いと認識しております．

最近これも酒の席での話ですが，ある老学者から『ヤマセという言葉は全国的にかなり広い地域で使われているにも関わらず卜藏君が言う「冷害との関係」だけがクローズアップされて，ヤマセという言葉は冷害の誘因だけだと世間の人が言うようになると【庇を貸して母屋を取られる】になりかねない』と聞かされました．私としては「ヤマセによる災害」がこの地からなくなることを願うだけでヤマセという言葉に執着するものではありません．

© 2003　日本気象学会